

ライフスタイル産業で自活する観光地づくり

GINOZA アクションプラン10



2021年12月6日

一般社団法人宜野座村観光協会

宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会

目次

1. はじめに	2
2. 基本的な考え方	2
3. 地域ネットワーク図	2
4. 宜野座観光の目指すべき指標	3
5. GINOZA ACTION PLAN	
GINOZA ACTION_1	3
GINOZA ACTION_2	5
GINOZA ACTION_3	6
GINOZA ACTION_4	9
GINOZA ACTION_5	9
GINOZA ACTION_6	9
GINOZA ACTION_7	10
GINOZA ACTION_8	11
GINOZA ACTION_9	11
GINOZA ACTION_10	11
6. おわりに	12
7. 委員会要綱	13
8. 委員会委員名簿	15
9. 委員会スケジュール&目標設定	16

1. はじめに

観光は、農業をはじめ宿泊業、飲食業、サービス業などあらゆる産業と、その地域に住む人々と来訪者を結ぶ地域の活性化に欠かせない産業である。

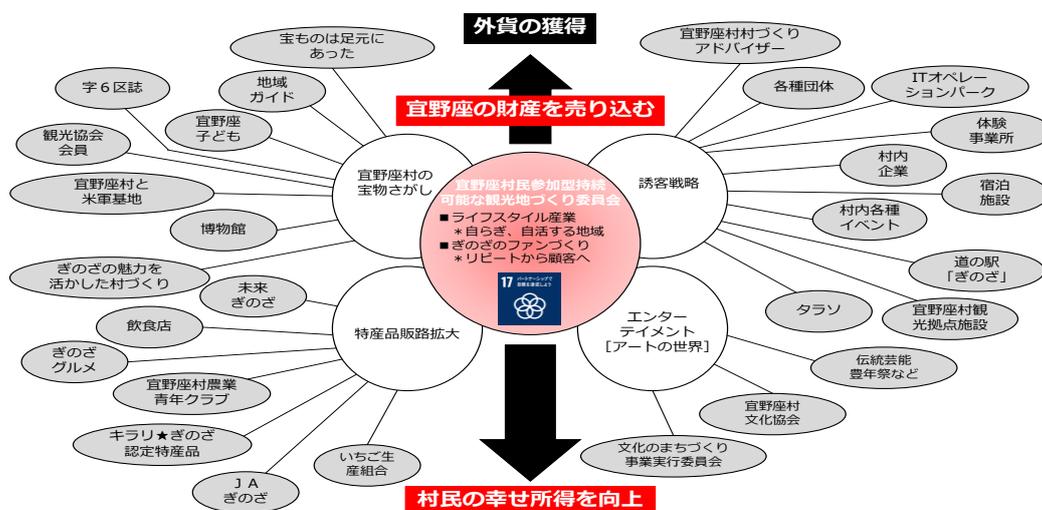
宜野座村には、自然や文化など多くの観光資源があるものの有効に活用されないため、村民所得の向上の機会を失っており、早期に行動を起こすことが求められてきた。

このアクションプランは、宜野座村総合計画並びに宜野座村観光振興計画を踏まえ、より実践的な行動計画とすることで全村民が気楽に関われる計画とした。

2. 基本的な考え方

- 1 「水と緑と太陽の里 宜野座村」をテーマとするライフスタイル観光地を目指します。
- 2 村民が主役となり、文化、芸能、習慣、風土などの「宜野座ふーじー」を継承します。
- 3 村民の幸せ所得向上に資する観光交流産業を実現実践します。
- 4 SDGs 観光先進地（エシカル消費宜野座）を目指します。
- 5 社会情勢の変化に柔軟に対応できる計画とします。

3. 地域ネットワーク図



4. 宜野座観光の目指すべき指標

過去20年の宜野座村の村民総生産・村民所得・観光入域者数・観光消費額グラフを作成し、2030年に向け、地域住民（意識）＋観光事業所（消費、泊数）＋入域客＋地域資源（保全）の4つの視点で、年1回アンケート調査を行い、持続可能な指標を導き、持続可能な観光地づくりの指標として、全ての数値が前年度を上回る数値目標の設定を行います。

5. GINOZA ACTION PLAN

GINOZA ACTION_1 水と緑と太陽の里に紐づく観光地を目指す

宜野座観光の意義と目指すべき姿

(1) 「水と緑と太陽の里・宜野座」をテーマとするライフスタイル観光地を目指します。

「水と緑と太陽の里」は、宜野座のアイデンティティーである。ガラマン岳をはじめとする雄々しく佇む緑の山々は、琉球王国において木材を供給する杣山であり、豊かな水は、県民の水がめである「漢那ダム」を有し、地を潤し豊潤な作物を実らせ、ニライカナイから昇るティダに安寧を願う宜野座村民の心です。

(2) 水

暮らしに最も重要な水。「湧水の里ぎのざ村」の「命の湧水（カー）」を住民参加型で整備し、「巡る旅」を通して「水の里ぎのざ村」をブランディングして行きます。

また、宜野座メイドの水とナチュラルで美味しい。あらゆる機会飲んで頂けるウォータービジネスの機会も検討して行きます。

- ①命の湧水（カー）を巡る旅
- ②ダムツーリズム [環境保全・5つのダム]
- ③地域住民と観光客が参加する環境保全活動 [有料化]
- ④ウォータービジネスへのチャレンジ

(3) 緑

雄々しく佇む緑の山々や、琉球王国ご用達の杣山だけではなく、農作物の豊かな緑（サトウキビ畑、パイン畑、地野菜、マンゴー、苺畑など生き生きとした作物の緑）、豊かな景色がグリーン宜野座を創り出している。

「ファームツーリズム」を通して宜野座の緑をブランディングして行きます。

- ①自然観察の旅の造成 [岩を巡る旅、古木を巡る旅、鍾乳洞を巡る旅]
- ②御嶽を巡る旅の造成
- ③畑を巡る旅の造成

(4) 太陽

朝日は東海岸地域において共通キーワードである。宜野座ライフスタイルでは、「ナチュラルな水と清々しい朝日を浴び育つ宜野座の農作物は美味しい」を他地域との差別化販売促進をして行きます。

また、宜野座にはフォトスポット的な「朝日を浴びる場所＝サンライズスポット」が多数ある。一日の安寧を願う神聖な場所として、宜野座の太陽をブランディングして行きます。

- ①サンライズ巡礼の旅
- ②GINOZA サンライズスポット 10 選 [初日の出スポット紹介]
- ③健康づくり [生涯スポーツ、ヨガ]

GINOZA ACTION_2 村民が主役の観光地形成を目指す

宜野座が好きだから旅してほしい！

宜野座ロングステイ旅の地域デザインは、宜野座村6区の魅力ある個性をGINOZA STYLEとして、ゾーニング戦略を行います。

(1) ゾーニング戦略

字松田区

松田むほう 【アカデミックカルチャーゾーン】	地域の相互扶助が強く行動力と団結力のある個性ある魅力的な地域である。鍾乳洞・独自の家並、道並・松並など、地域全体を「アカデミックカルチャーゾーン」として発進していく。
---------------------------	---

※アカデミックとは

「純粋に学問的なこと」や「学術的（がくじゅつてき）」という意味

字宜野座区

宜野座めーさー 【スポーツ・アートゾーン】	争いごとを好まず自尊心を尊ぶ個性ある魅力的な地域である。役場・野球場・博物館・文化センターなど、地域全体を「スポーツ・アートゾーン」として発進していく。
--------------------------	--

字惣慶区、福山区

惣慶くんじょう 【トラディショナルゾーン】	信念に基づく価値観を持ち行動する個性ある魅力的な地域（福山区含）である。宿泊施設や農作物景色、多彩な石敢當など、「トラディショナルゾーン」として発進していく。
--------------------------	---

※トラディショナルとは

伝統的であるさま。また、因襲的なさま。旧式なさま。

字漢那区、城原区

漢那がらさー 【ウェルネスゾーン】	地域のコミュニケーション力に富み意思表示が得意で（城原区含）常に場を盛上げる個性ある魅力的な地域である。タラソ・道の駅・パークゴルフ・かんなダムなど、「ウェルネスゾーン」として発進していく。
----------------------	---

GINOZA ACTION_3 SDGs 観光先進地を目指す



(1) 「レスポンシブル・ツーリズム」をモットーとする。

環境問題や文化への影響を宜野座村及び村民は言うまでもなく、訪れる観光交流客も含め、関わるすべての人が考え、共に自身の行動に責任をもって村づくりを実践し旅をするという「責任ある観光」の実践は責務です。

※レスポンシブル・ツーリズムとは

観光に携わるすべての人が、その土地の環境や文化などに与える影響に責任を持つべきであるという考えのもと、より良い観光地をつくる動きのこと。責任ある観光ではより旅行者側に持続可能性を意識してもらうことを重視している。

- ①宜野座村ルール入村10ヶ条の制定
- ②環境改善・保全活動に向けた取組み
- ③環境美化の推進



(2) 宜野座版観光危機管理に取り組みます。

観光危機管理（台風、地震、津波、感染症などの災害）に向けて、地域住民と一緒に取り組むことで、住民と観光客の安心・安全が守られ、より良い観光地づくりを目指します。

また、宜野座村が策定する観光危機管理計画をもとに、近隣市町村とも積極的に連携を取り、観光危機を事前に想定し、被害を最小限に抑える対策と対応ができる体制を整えます。

- ①宜野座村観光協会防災マニュアルの作成
- ②地域住民参加型の定期的な訓練の実施
- ③宜野座村観光危機管理計画との連携した取組み



(3) エシカル消費宜野座を目指します

「エシカル消費」とは、人、環境・社会・地域に配慮した商品を選んで購入する消費行動です。「地産地消」を基本とし、生産者である村民と消費者である村民自らが実践し多様な社会課題の解決を図ることにより、訪れる観光交流客参加型の生産消費スタイルを構築します。

- ①エコ農作物の販路拡大
- ②食品ロスを減らし加工へと繋げる
- ③環境に配慮した行動 [3R (リデュース、リユース、リサイクル)] の推進
- ④村民消費の推奨



※リデュース

製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。耐久性の高い製品の提供や製品寿命延長のためのメンテナンス体制の工夫なども取組のひとつです。

※リユース

使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。その実現を可能とする製品の提供、修理・診断技術の開発、リマニュファクチャリングなども取組のひとつです。

※リサイクル

廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること。その実現を可能とする製品設計、使用済製品の回収、リサイクル技術・装置の開発なども取組のひとつです。

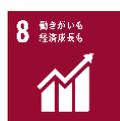
(4) 観光交流産業を推進し、村民の幸せ所得向上の実現を実践します。

「観光で稼ぐ」とは「宜野座の財産」を増やすことだと考えています。そして訪れる観光交流客は「ショートステイの村民」です。観光産業は唯一の外貨獲得産業であり、村の自主財源を増やし村民総生産と村民所得を向上させ、宜野座のブランディングを内外へ発信する戦略的成長産業です。

「暮らす、楽しむ、招く」を基本とする歴史的（伝統遺産・文化・芸能・習慣）な村づくりは、観光交流で実現できます。観光は名所旧跡を訪れるスタイルから、訪れる地域そのものが目的となり、ホスト（村民）のライフスタイルが、ゲスト（旅人）の心に響く旅となります。

さらに、「観光サービス業」「観光農業」「観光漁業」「観光製造業」で観光における村内機会喪失を無くし「次代を担う独創的で発想力に優れた人材「観光ベンチャー」育成」に努め、多様な産業課題を解決する観光施策を実施して行きます。

- ①観光による地場産業の活性化
- ②ストーリーテラー（有償ガイド）の育成
- ③ふるさと納税への貢献・商品造成



(5) 伝統遺産・文化・芸能・慣習などの「宜野座ふーじー」を継承・保存・高度化させ、文化観光を推進します。

アフターコロナにおけるポスト観光は東海岸が注目され需要が高まる地域となります。「てんぷす宜野座」とは、本島の真中ということではなく、東西南北への移動利便性が良い観光交流の拠点であるということでもあります。

宜野座村が東海岸観光を牽引すべく地域創生村民参加型の観光施策を展開して行きます。

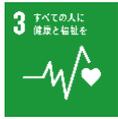
- ①道並み・街並み・松並の発信、提案
- ②各区芸能保存会との連携
- ③クリエイティブ・ビレッジ構想 [非日常空間の演出を提供]

(6) 宜野座村では、「健康宣言の村」を推進しています。

アジア最大級のタラソ施設を有し、ウォーキングに最適な環境と4つの自然海浜を活用しながら、宜野座村民が心身ともに健康でなければ幸せ所得向上にはつながりません。村民と交流客に対し多様なプログラムを提供します。

①カンナタラソラグーナとの連携

②健康を意識したオプションルツアーの造成 [ゾーニングによる差別化]



GINOZA ACTION_4 マイクロツーリズム No.1 を目指す

宜野座観光の現状は通過型であり日帰り観光地が主となっています。これからの流行する観光は、地元御用達であり、村民県民が愛でる地域に交流客は集います。観光の平準化は重要な課題であり、繁忙期・週末型観光地から通年型観光交流地を実現します。

①県民ご用達の魅力度 No.1 地域の提供 [旬に応じたプログラム開発]

②様々なエリアの特徴を活かしたキャンプサイトの発掘・提供

③がらまんパブリックアートプロジェクト連携

④アーティスト活動支援、アーティスト創業支援、多様な地域工房

GINOZA ACTION_5 多様な合宿のメッカを目指す

国内唯一の亜熱帯性気候である沖縄は、41市町村が観光・スポーツによる地域創生に積極的に取り組んでいます。宜野座村の現状においては、スポーツ施設・環境等も整い、野球・スプリントカヌー競技等を中心に受入を積極的に取り組んできました。

今後は、多種多様な受入を視野に体制強化を行いながら通年通しての受入体制を目指します。

①ニーズに合った多様な合宿の誘致 [スポーツ、文化・芸能等]

②スポーツコーディネーターや著名人等と連携したスポーツツーリズムへの取組み

③スポーツの力を活用した地域貢献への取組み

④宜野座村総合運動公園を拠点としたスポーツツーリズムの創出

GINOZA ACTION_6 次世代へ受継ぐ観光交流を目指す

村民との協働による観光交流事業

①宜野座の宝もの探し

②宜野座っ子プロジェクト [宝もの絵画・作文コンクール、活動支援]

③若者のあらゆる視点・角度で観光空間を描く場の提供

GINOZA ACTION_7 稼ぐ観光産業を目指す

産業で重要な事は販路です。村民6千人プラス観光交流客数を販路とし「持続可能な生業化」を推進します。(Tourism industry)

(1) 観光サービス業

仕掛けから誘客までを一連した取り組みを実施しながら域内消費を目指します。また、周遊させるキッカケを生み出し、滞在時間を伸ばすことを目指します。

- ①観光従事者(体験業、宿泊業、飲食業)と連携したクーポン事業等の展開
- ②宜野座村の食べる・見る・楽しむの提供
- ③宿泊に繋がる仕掛けづくり
- ④ショートステイ村民へ村民観光カードを発行し、旅人へ多様な仕掛けの提供

(2) 観光農業

農作物を作るから「楽しむ・招く」の視点から観光交流で営む。主役は「つくる人(村民)」と「有機の里」宜野座の水と太陽を浴び育つ青果。

- ①宜野座村内農業関連団体との連携
- ②農業プラスαの創出

(3) 観光漁業

宜野座村漁村組合観光部会との連携で「潮風を浴び交流客が寛ぐ漁港」を目指します。

- ①メイドイン宜野座の海の幸を振舞う海人ダイニングの創出
- ②漁業プラスαの創出

(4) 観光製造業

欲しくなる特産品は、製造者の視点からではなく、マーケットインの視点でブラッシュアップ。村内販売消費を基本とし、村内のあらゆる場所に販売拡大の創出。

- ①「キラリ★ぎの座 SHOP」プロジェクト[認定グルメ、認定土産]
- ②メイドインぎのざ BOX の設置[販促ブランディングに務める]

GINOZA ACTION_8 道の駅「ぎのざ」のランドマークを目指す

全ての情報拠点・交通拠点・特産品販売拠点・エンタメ拠点であり観光交流の拠点及びドライブ旅行の拠点としての強化を推進します。

- ①ファミリーに愛される空間の提供
- ②宜野座村観光拠点施設の愛される名称の提案・オリジナルグッズ開発

③ノスタルジックな風景に出会える道の駅「ぎのぎ」の創出

GINOZA ACTION 9_宜野座主導によるライフスタイル旅を目指す

宜野座へ旅人を誘うのは、旅行会社との協働が最も効率的である。定期的なセッション及びプレゼンテーションを開催し旅行会社参加型販売促進を実施します。

- ①旅行会社に向けた定期的な商談会の実施
- ②地域ビジョンを共に共有・実現できるパートナーとの共創を目指す

GINOZA ACTION_10 オーバーツーリズムへの取組み

沖縄の基幹産業であり地域創生に不可欠な観光交流産業は持続可能でなければなりません。持続可能の定義は「観光交流において害を与えないこと」から「観光交流は有益であること」へと進化しています。今や責任ある知的旅行者としての「レスポンシブル・ツーリズム」は旅の必須条件となりました。

多くの旅行者は、持続可能な社会であることを心から願い、グローバル観光においては地球人としての道徳的要請です。交流者は自然を愛で、環境を保護し、文化財を守り、それらを実践する地域へ出向き、それら地域へ積極的に寄与したいと考えています。

宜野座村は観光交流産業の発展に伴い、予想されるオーバーツーリズムへ未来のまなざしで対応して行きます。

- ①需要の平準化
- ②観光交流者との協働
- ③文化財などの維持管理を協働
- ④道並・家並・街並整備を協働
- ⑤増加する観光交流者を予測し、ゴミ問題、水問題、道路整備、公園整備、駐車場整備への対応

5. おわりに

これまで、宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会では、戦略的実践的な観光地づくりアクションプランの策定に向けて協議してきました。各委員からは、今後の宜野座観光についての意見や要望を多く頂き、アクションプランの取りまとめに至りました。

今後は、このアクションプランをもとに、責任ある観光地づくりに邁進し、日々変化する社会情勢の変化に柔軟に対応しながら宜野座観光の発展に取り組んでいきます。

宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、宜野座村の地域資源を活用し、観光の質と交流人口を増やし、村民参加型による観光産業を形成し、自ら稼ぎ、村民所得を上げる事を目的とした課題解決型組織、宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営に関する事項を定めるものとする。

(協議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議するものとする。

ライフスタイル産業で自活する地域づくりに関すること。

- (1) 宜野座村の宝物探し
- (2) 誘客戦略
- (3) 特産品販売拡大
- (4) エンターテイメント
- (5) 統計調査
- (6) その他

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で構成する。

2 委員長は、宜野座村観光協会会長をもって充て、副委員長は、委員長が任命する。

3 委員は、別表のとおりとする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第5条 委員会は、必要に応じて会長が招集し、会議の議長は、委員長がつかさどる。

2 委員長に事故等があるときは、副委員長が議長となる。

3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことはできない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(報酬)

第6条 委員は、無報酬とする。

(関係者の出席)

第7条 委員会において必要と認めるときは、その他関係者の出席を求め、意見を述べさせ、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(事務局)

第8条 委員会の事務を処理するため、宜野座村観光協会に事務局を置き、事務局長は、宜野座村観光協会事務局長をもってあてる。

(秘密の保持)

第9条 委員は、その職務上知り得た個人又は業務上の情報を外部へ漏らしたり、他の目的に使用してはならない。委員の職務を退いた後も、同様とする。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則 この要綱は、令和3年8月16日から施行する。

宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会 委員名簿

(委員)

	役職名	氏 名	備 考
1	委員長	新里 清次	一般社団法人宜野座村観光協会 会長
2	副委員長	當山 智士	宜野座村むらづくりアドバイザー
3		金 武 哲 也	宜野座村役場観光商工課 課長
4		友利 直子	宜野座村役場観光商工課 観光アドバイザー
5		田里 一 寿	宜野座村役場教育課 課長補佐
6		新垣 正松	宜野座村役場産業振興課 販売戦略アドバイザー
7		凶師 里佳	カンナタラソラグーナ 支配人
8		藪田 優子	香りと場研究所 代表
9		古謝わかな	WAKANA Pro. 主宰
10		小越 友也	宜野座村文化のまちづくり実行委員会
11		森田 智代	松田区鍾乳洞観光協会 事務局
12		仲栄真大輔	スポーツショップギノザ
13		仲 地 暁	宜野座集落ボランティアガイド
14		狩俣留美子	宜野座村 女性代表
15		新里 紗弥	宜野座村 女性代表

(事務局)

	役職名	氏 名	備 考
1	事務局長	仲 間 赴 人	一般社団法人宜野座村観光協会
2		浜比 嘉 圭	〃
3		石川 秀 友	〃
4		新里 浩 司	宜野座村観光協会アドバイザー
5		仲 間 出	宜野座村役場観光商工課 参事
6		東 全 志	宜野座村役場観光商工課 主事

宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会
スケジュール&目標設定

(委員会)

回数	日時	協議事項
第1回	令和3年8月26日	1. キックオフ (1) 宜野座村民参加型持続可能な観光地づくり委員会要綱 (2) 発案者の思い 2. 協議事項 (1) 今後の方向性及び目標
第2回	令和3年9月27日	1. ディスカッション (1) 宜野座チャレンジ (當山智士) (2) アート・クリエイティブ (小越友也)
第3回	令和3年10月25日	1. 協議事項 (1) 水と緑と太陽の里に紐づく定義の設定 (2) ゾーニング (各区エリア別) での戦略 (3) 宜野座村GDPを上げる10のプラン
第4回	令和3年11月10日	1. 協議事項 (1) ライフスタイル産業で自活する観光地づくり GINOZA アクション10策定に向けて 2. 共有 (1) SDGsについて
第5回	令和3年11月24日	1. 協議事項 (1) ライフスタイル産業で自活する観光地づくり GINOZA アクション10策定に向けて
第6回	令和4年3月30日	1. 報告・共有 (1) 宜野座村長要請について (2) 令和4年度 アクション計画について

(ブレスト会)

■第3回目に向けたブレスト会

日時：10月 7日(木) 10時30分～ 委員長、副委員長、観光アドバイザー
10月13日(水) 10時30分～ 委員長、副委員長、観光アドバイザー